

第六節 災 害

一 大 正 期

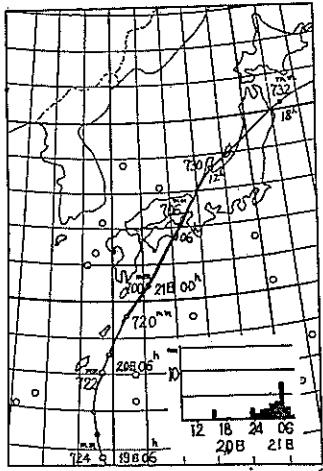
大正元年(一九一〇)九月二十二日台風(洪水・高潮) 九月二十二日夜半前に県南海岸を掠めて阪神地区に上陸したAクラスの台風、雨量二十一日和食三五七(単位ミリ) 神野三〇五、二十二日一字五五五、市場三七八、福原三五二このため出水吉野川(徳島七・五(単位メートル) 脇町一〇・五)、那賀川(岩脇六・三) 勝浦川(丈六寺(六・三) 板野郡は田畑の冠水三メートルに達した。被害、死八十一、傷五十三、不明十四、住家全壊四十六、半壊七九六、床上浸水二六・七〇八、流埋耕地一八五〇町、浸水二八・一〇二町。

二 昭 和 期

室戸台風 昭和九年(一九三四)九月二十一日

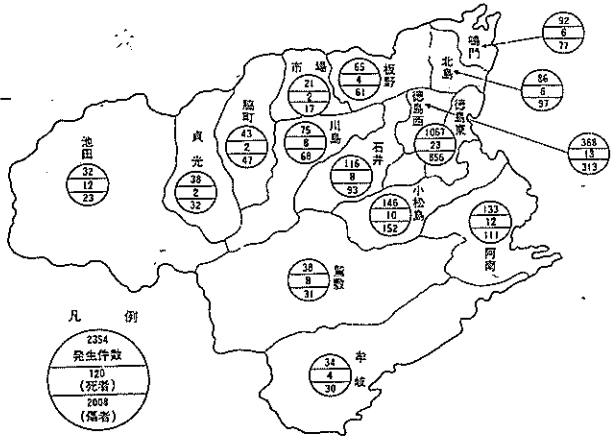
台風の経路と示度は図のとおりで二十一日午前五時十分室戸岬を通った時の最低気圧は六八四・〇ミリで空前の最低記録である。徳島七〇六・八、洲本七〇六・三、大阪七一五・八、京都七一八・四ミリ、徳島のすぐ西、内陸を副台をともなつて北進した。徳島で十五メートル以上の暴風が二十日二十一時から二十一日九時まで十三時間吹いた。被害は台風通路の東側に大きく海部・那賀二郡では四・三%の全壊家屋、名東二・六%、板野一・八%。また高潮のため二、三〇〇軒の浸水(全戸数の徳島で七四%、板野二四%)あり、撫養の塩田は荒廃し、海岸の稲作は七百町歩が収穫皆無となった。

昭和十三年九月五日の台風地図



死者	37
明傷	345
全壊	2
半壊	922
流失	1268
床上浸水	66
下	6168
失	12517
船	2803
橋	24
破	353
損	69
欠	30450
防	28420
畑	石
材	

同 上 被 災 図



台風 昭和十三年(一九三八)九月五日 この台風は中心示度七一五ミリで十一時七分ころ牟岐から上陸、徳島の真西を通過して十三時に北灘に抜けたが四国近畿の被害が大きく最大風速が二十九・三メートル、降雨の時間は短かったが福原では四、五の両日

間に七八〇ミリを計ったといわれ、横瀬三九四、小祖谷三三二、下分上山三三三ミリ、これらは大方五日の昼頃の二時間位の大降であった。そのため勝浦川、鮎喰川、穴吹川、貞光川、宮川内谷は未曾有の大氾らんとなった。

第三章 社 会

死者	44
傷者	30
不明	15
全家壊	166
半壊	277
流失	293
床上浸水	1145
床下	4336
道路欠壊	379
橋流失	101
堤防	43

南海大地震（津波）昭和二十一年（西暦）十二月二十四日  
 午前四時十九分ころ潮岬の南方五十キロにおこった大地震  
 （最大震度VI）津波によって東海から九州まで被害を出し死者  
 一三六二、全壊一一五〇六戸余震も驚くほど多く、震後地盤  
 変動があり四国では室戸岬等の最南端が隆起したが全般的に  
 沈下した。

本県では震度V（著しい水平動で外に出ても立っていられないほどであり、また、地割れや建物の被害あり）内陸はVI、余震は月内に有感五五回（無感二三〇回）が観測された。津波は日和佐三メートル牟岐四・五、浅川四・七、穴喰四・五、被害は下表のとおりである。

	人	住	家	堤	道	橋	船	田	畑		
	死	傷	全壊	半壊	床上	床下	防	路	浸		
徳島市	2	5	23	22			1	0	0	3	60
名東郡	1	0	6	8			0	0	0	0	町0
小松島市	1	3	6	10	96	248	3	1	2	11	431
那賀郡	6	27	47	118	1844	174	3	12	6	83	954
三岐田	8	16	52	198	488	144	11	0	2	36	12
日和佐	1	1	5	7	28	58	3	0	1	4	町30
牟岐	53	40	154	199	755	235	0	1	0	78	町16
浅川	85	80	161	169	85	15	4	0	0	80	町62
穴吹	9	58	10	107	97	155	7	3	0	35	町96
鞆奥	0	0			42	38	1	0	0	0	